

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102660		
法人名	合資会社スマイル介護サービス		
事業所名	グループホーム花椿		
所在地	長崎市竿浦町37-2		
自己評価作成日	平成21年12月9日	評価結果市町村受理日	平成22年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①管理者は利用者並びに介護従事者が共に居心地が良い環境作りに努めている。 ②利用者の表情はいつも明るく笑顔で日々の家事参加に取り組んでいる。 ③嘱託医は毎週訪問し利用者が健康的に楽しく過ごされているか観察及び助言を行っている。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中に位置し、静かな環境の中で理念でもある笑顔を大切に、心にゆとりがもてるよう利用者や職員ともに日々の生活を営んでおり地域との交流も積極的にやっている。運営推進会議は定期的に開催され、内容もマンネリ化しないような工夫がある。週1回連携病院の往診があり、それに加え看護師の訪問も週2回あり、利用者の健康管理に十分配慮している。病院受診についても、家族と連携し対応困難な場合は送迎等支援を行っている。また介護計画についても、毎月評価して見直し時期には担当者会議を行い計画に活かしていた。家族に対しては、アンケートの活用や施設長との対話を通して運営等に反映し、利用者本意の支援に努めている事業所である。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月の職員会議にて決定した理念「笑顔」を日々実践している。	理念については毎年度初め会議で、現状に合ったものなのかの検討を行っている。今年度は前年に引き続き「笑顔」とし、利用者・職員共に地域での笑顔でゆとりのある生活を日々実践しているが、啓発、広報の部分での取り組みまでに至っていない。	理念は施設の玄関に表示していたが、他には掲示や掲載がない為、パンフレットや発行している新聞への掲載等を考慮し、地域や利用者家族がより広く理解するような啓発、広報部分での取り組みに期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入会すると共に自治会が主催する防災訓練等に参加又は餅つき等の事業所主催の行事に近隣の住民に参加を案内している。	自治会の防災訓練や地域の行事に参加し、事業所へ地域ボランティアの踊りのサークルの訪問等も行われている。事業所主催の花火大会や餅つきへも声かけ参加を促している。日頃からゴミ出し等の挨拶等利用者と一緒に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長等が地域民生委員の例会などで、事業所の取り組みなどを発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は6回開催、テーマによっては講師を招いてアドバイスをいただきながら、構成員との意見交換を行い、意見は職員会議で発表し実践に生かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、参加メンバーも要件を満たしている。外部評価の結果報告は基より、権利擁護の講義やオムツ交換の職員研修の様子を見学してもらい、利用者と直接対話する機会を設け、参加メンバーに現状を知ってもらい意見が出やすい工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの職員へ運営推進会議の構成員に入っただき、事業所の取り組みを説明している。	年2回の介護相談員派遣を受けており、その結果、相談員から利用者の希望や意見を聞けるため事業所にとっても有意義な機会になっている。生活保護や介護申請等の相談等も行い、同事業所の居宅支援事業所を通して交流や情報提供があり連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設して8年間、施設長・管理者は身体拘束をしない介護に取り組んでいるまた実践している。	今年度は身体拘束について施設長が内部研修を行っている。特に他事業所の事例は、タイミングを逃す事無く職員間で話し合いを持っているため、職員の関心も高くそれが実践にも繋がっている。日中は玄関等、鍵をかけず職員の気配りと目配りで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等へ参加し、高齢者虐待防止法を学んでいる。また運営推進会議において話し合っている		

グループホーム花椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターの職員より運営推進会議の中で又は個別に学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は事業所見学及び支援の内容を良く理解していただいて契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に意見・苦情窓口を設置及び年2回家族会の中でその機会を設けています。	苦情窓口は内部・外部とも重要事項説明書に記載しており意見箱も設置している。外部評価のアンケート用紙を用いて家族の意見を参考にする取り組みや家族会の終了後に個別に家族と施設長との対話の機会を設けている。また日頃から面会時の会話、利用者の現状報告を欠かさないよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者は対応困難な場面・悩みなどを聞く機会を常日頃設け解決の糸口を提案してくれる。	主に職員会議を利用し意見や提案を聞く機会を設けている。全体の会議では言い出しにくい内容も、管理者や計画作成担当者に個別に相談ができています。職員のアイデアからトイレのカーテンや階段の両手すりの設置等に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務は職員の意見を取り入れた勤務になっており、有給休暇等取りやすい環境である。他の事業所より働きやすい環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会や社会福祉協議会及び行政が行う研修会を受ける機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が行う行事などへ参加するなどして、交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族の意向を十分把握し、居心地がよい環境を提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階にて家族と人間関係を作り、利用者の不安・希望について耳を傾け受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容に基づき幅広いサービスの対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として敬いよい関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の悩みやトラブルなどに対して家族と共に支えあえる関係が出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域・家族友人との関係が途切れないように支援している	家族の面会が少ない場合は電話等で声かけしている。日頃から利用者家族の情報等も把握し、支援に繋がるよう取り組んでいる。馴染みの美容院や、知人の来訪の受け入れ等、これまでの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係は良い関係を保っている、トラブルなどが見られるときは速やかに対応している。		

グループホーム花椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先に訪問したり、退院後の入居先などの相談など支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の介護に努めている	日常生活の中で日頃から、会話やコミュニケーションを通して好きな事や思いを聞き取り把握している。自ら意向を表出できない利用者には特に、表情等から把握するように努めている。ケア会議の中でも話し、情報を共有している。親族が集まる機会に墓参りと雲仙1泊旅行の希望が実現できた利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	評価モニタリングを職員全員で行い情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力を見極め、その人に合った1日の過ごし方を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている	6か月毎に介護計画を立案し急変等はその都度見直している。利用者、家族の意向は最初に希望した言葉に重きを置き計画に活かしている。毎月、担当者により介護支援経過を計画に沿って評価を行っている。計画の見直し前にはサービス担当者会議を開催し「生活状況:ケアプラン提供チェック表」の記載を基にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活に状況やケアプラン・サービスの提供の内容、気づきなどを記録し計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて柔軟に支援している		

グループホーム花椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の能力に合わせて、利用者の力を発揮できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は看護師を中心に送迎など支援しているが、協力的な家族もいればそうでない家族もいる	希望のかかりつけ医を継続し、家族会からの要望で家族の受診時に状態がわかりやすいよう主治医への報告や質問をまとめた連絡表を渡し返事もらい連携している。また送迎支援の際は経過を電話で報告している。週1回、協力医療機関の往診、週2回の看護師訪問が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を家族会などのテーマにして話し合いを持っている	医療連携加算同意書の中に重度化に関する事が入っており、指針・基本方針を基に終末期が近づくと家族より意向確認書ももらっている。指針、方針は仕組み的にしっかりしたものができているが、職員の受け入れ体制、教育体制が十分とは言えない。	可能な限り継続して事業所でその人らしさを尊重した介護を継続することを指針としているので、そのための医療機関との連携強化や受け入れ体制、職員教育、家族、職員の精神的ケア等、再度、対策検討を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		年2回、昼夜間想定で訓練を実施し消防署立ち会いのもと行っている。火災や、地震水害を含む自然災害対策マニュアルを作成し、職員は避難経路図を実際に歩き確認したり誘導灯に従って避難する訓練を積み重ねている。自治会主催の防災訓練にも参加し、地域との協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー・個人情報の大切さを理解し徹底している	個人情報に関して職員と誓約書を交わし十分配慮を行っており、些細なメモ等でもシュレッダーにかけるような徹底を行っている。記録等については保管場所をスタッフルーム兼事務所に定められている。職員の利用者への言葉かけや対応等は、一人ひとりの誇りを損なわない対応となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し本人が納得できる対応が出来るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を基本にしてその人らしさの生活が送れるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思でおしゃれが楽しめるように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事の支度、後始末を行っている	事務長が栄養士であり、利用者の嗜好や健康に配慮した献立になっている。日常、職員は食事介助を行っており一緒に食事をしていないが、利用者が楽しみにしている行事食は職員も共に楽しんでいる。季節感を大事にし、ツワむき、豆の筋取り等、利用者のできることは手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士・看護師・介護員が常に状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師による集団検診及び口腔ケアの研修会を開催した		

グループホーム花椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している	個人ごとの詳細な排泄チェック表があり、半月ごとに管理され排泄パターンの把握に繋がっており、それを基に職員はトイレ誘導等、自立に向けて支援している。日中は殆どの方がトイレ対応で、パットについても厚さ等、昼夜の時間帯で利用者ごとに変えて、利用者が快適に過ごせる工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる体制をとっている	曜日は決めておらず、要望があればいつでも入浴できる体制が整っている。また脱衣所に各利用者の入浴後の皮膚のケア表があり、利用者への配慮が伺えた。入浴拒否の利用者には声かけの時間をずらすなどして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムに配慮しながら休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日戸外に出て散歩やゲーム談話の機会を提供している	日常的に戸外に出る機会が多く、グループに分けて車イスの方も一緒に遊歩道やゲートボール場の見学に出かけ地域の方との交流にもなっている。また管理者が中心となり利用者の希望の場所へのドライブ、温泉、花見、ランタン等計画をたて利用者の楽しみごとになっている。	



グループホーム花椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などに出かける機会を提供している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している	共用空間は明るく清潔で、よく換気も行われている。季節を感じる展示物や手作りの作品で壁面が飾られている。廊下にも季節毎の行事の写真が飾られ利用者の会話に役立つ様に工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士のなじみの関係が出来ている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた品物を持ってきていただいている	居室は個人の馴染みの道具があったり、本人や家族の写真や花が飾られたり、居心地良く過ごせる工夫がされている。ドアを開けておく場合にはカーテンでプライバシーの工夫がされ、利用者の落ち着く場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している		